

● 町民の広場

ふるさと

大丸公民分館 女性部長

中村 茂子



五年前に私は大崎町に帰って参りました。

「ふるさと」といいな一と思っている内に、アツという間に年月が去っていききました。

私の趣味は華やかに踊ること、楽しみながら食べること、しゃべること、出掛けること、全部好きです。仕事から着物がすごく好きです。着物って形が決まっているから、柄を思い切り派手にしたり、地味にしたり、半衿ひとつ、掛衿ひとつでガラッと雰囲気が変わったり、また大胆にもなります。

踊りも同様、花や蝶のように飛び交うように、時には激しくもやさしくも

又、楽しみながらドキドキしながらも、伸びやかに一人より二人、二人よりも三人と多くの人に感動してもらえる踊り子になろうと今、社会福祉のボランティアに励んでいます。

地域に広がる大きな花と大きな枝を、近くからも遠くからも沢山の人の賑わう夢膨らむ集落になればいいなと思っています。

人は今、食べるものに囲まれて生きています。海へ出れば魚、山へ行けば山菜と、こんなに豊かな自然に囲まれています。

習慣というのは長い時間をかけて作られていくもので、日々の忙しさに流されて、その時その時でちゃんと思いやりのある生活をしていかなければ、幸せな生活があるとは思わない。人と人をつなぐ思いやりの心、今はなくなりつつあるジイちゃん、バアちゃん、トウちゃん、カアちゃん、子供、孫たちと一緒に、喜び悲しみあいなながら又笑顔での家族団らん。今「こんな所で暮らしても駄目じゃ」とか「こんな家もおいどんたちで終わりじゃがな」とか、ばやくお年寄りの

声が聞こえてきます。

ちよつと前までは町に暮らす、一人ひとりが夢を持って生きていた。子供を育てよう、地域で生きていこうと概に満ちあふれていた。

校区のみなさんのふれあいと元気な笑顔になればと、大丸校区は夏祭りとして初めての砂の祭典にと、一歩踏み出し校区の皆さんの心が一つになり、砂の祭典も見物客で賑わい、お客様の思いやりの言葉が返ってまいりました。

「まこち、大変じゃった」と「ほんのこて良かん出来ちよいが」「くずれんどかい」「かわいかな、子供が作ったたろかい」「素晴らしいね」と、次から次へとこんな言葉を聞いていると、今までの苦労は吹き飛んでしまし「ななぎやつたどん、頑張ったじよかつたな」と言いながら大喜びでした。

夏祭りは雨になり、大丸改善センターで開会され、演じる人、見物する人、人と人との掛け合いのなかで、大輪の花を咲かせて生き生きと輝いていました。これもひとえに支え協力してくださった皆さまのお陰でした。これから地域の方々と時間を作り、新しいことにチャレンジしながら出会いを大切にしていきたいと思えます。

編集後記

いま、地球規模でさまざまな自然災害が発生しています。米国南部を襲ったハリケーン被害、パキスタンでの大地震、想像を絶する局地的な大雨などは、ほんの一例にすぎません。本町におきましても、台風14号による農作物の被害と菱田海岸の浸食・防波堤の崩壊等、大きな爪あとを残しました。被害に遭われた皆様に、心からお見舞い申し上げます。

議会だよりは、10名からなる広報委員によって作られています。広報委員の一人ひとりが原稿を担当し、発行までには委員全員による原稿の校正やレイアウトを経て議会だよりが出来上がります。

これからも、読みやすく、わかりやすい紙面作りを目指して努力して参りますので、紙面や議会に対するご意見・ご感想などお聞かせください。議会だより第97号をお届けいたします。

広報編集委員一同